

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	小沢 浩美
主 論 文 題 名： 保育所における医療的ケア児への支援に関する研究－保育と看護の視点から－				
(内容の要旨)				
第1章：序論				
増加する医療的ケア児への支援が求められている社会的背景を踏まえ、本研究では社会的な支援のひとつである保育に焦点を当てた。文献検討によって、医療的ケア児の家族の介護負担は高く、医療的ケア児への支援は喫緊の課題であると考えられた。また、本邦では保育の需要が高まっている状況にあり、医療的ケア児においても保育のニーズがあることが把握できたが、安全上の問題や看護師の確保といった課題によって医療的ケア児が十分な保育を受けられていない状況が把握された。さらに、保育所において医療的ケア児の保育に携わる保育者が抱く困難感や、看護師の立場の不明瞭さ、看護師の役割へのとまどいが報告されていた。 以上の背景より、保育所における医療的ケア児への支援とはどのようなものなのかを明らかにすることを本研究の目的とし、3つの研究を実施した。				
第2章：研究1				
医療的ケア児の保育に携わる保育者が抱く困難感とはどのようなものなのかを明らかにすることを目的とした。保育所に勤務する保育者へインタビューを実施し、収集したデータを、グラウンデッド・セオリー・アプローチのオープン・コーディングを用いて質的帰納的に分析した。 その結果、保育者が抱く困難感に関する4つの概念を把握した。保育者は、子どもの医療器具にとまどい、子どもへの触れ方や声のかけ方が分からず《子どもに接することへのとまどい》を感じていた。また、医療器具の扱い方によっては子どもの命に影響を及ぼすと感じ、医療器具の扱い方や扱ってよい範囲が分からず《子どもの医療器具を扱う怖さ》を感じていた。さらに、保育者は、子どもの医療的ケアに伴う安全の確保と発達の援助を考えることの間で《保育活動に制限があるもどかしさ》を感じ、医療的ケアを実施する看護師から保育への理解や配慮を感じられるか、子どものためになっているかによって《子どものためになる看護師との連携》に困難を感じていた。保育者の困難感を軽減し、医療的ケア児への保育環境を整えるためには、保育者が感じる困難感の具体的内容や程度を踏まえたうえでの医療的な知識の提供と、医療的ケア児との関わり方のサポートが必要であること、学際的視点を重視し、保育者と看護師が互いの専門的視				

点を共有できる教育プログラムを検討する必要があることが示唆された。

第3章：研究2

保育者が医療的ケア児に関わる際のとまどいはどのように変化し、医療的ケア児に対し保育者としてどのように関わるようになるのかを明らかにすることを目的とした。医療的ケア児が利用する保育所2施設に勤務する保育者7人に半構造化インタビューを実施し、グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。

その結果、保育者は《医療的ケア児と関わることへのとまどい》を感じていたが、《医療的ケア児との関わり方の模索》によって《医療的ケア児をひとりの子どもとして認識する》ようになり、《子どもの医療的ケア対応を学ぶ》ことを通して【医療的ケア児の保育をつくる】ことをしていた。看護師と協力して【医療的ケア児の保育をつくる】ことができれば保育者は《保育の充実感》を得ていたことが明らかとなった。保育者が専門性を発揮し、医療的ケア児の保育に貢献するには、看護師による支援が求められる可能性が示唆された。

第4章：研究3

医療的ケア児の保育中に看護師が行っている支援とは何かを明らかにすることにより、看護師の専門性に関する示唆を得ることを目的とした。医療的ケア児が利用する保育所に勤務する看護師9名へ半構造化インタビューを実施し、収集したデータを、グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。

その結果、看護師は《保育の状況確認》によって《保育者が抱く困難感の推測》や《医療的ケア児の状態に悪影響が及ぶリスクの査定》を行い、《保育者と医療的ケア児の関わりを支える》《医療的ケア児の状態を整える》《保育の環境を整える》ことを通じて【医療的ケア児の育ちを支える】支援につなげていたことが明らかとなった。看護師によるいずれの支援も保育の内容や保育者の状況を考慮した支援であり、医療的ケア児の保育における看護師の専門性が示唆された。

第5章：総括

本研究を総括し、医療・保健・福祉領域における専門職間連携について考察した。保育所において医療的ケア児を支援する保育者と看護師の専門職間連携においては、それぞれの専門職が同一の目標を共有すること、互いの専門的視点を知る機会を作ること、専門職の役割分担を明確にしつつも互いの専門性に固執せず専門職間連携による新しい役割や思考の発見によって互いの専門的視点を統合し新たな専門性を創造していくことが重要であると考えられた。

今後の医療的ケア児への保育においては、保育に関する政策や人員配置を整えることに加え、保育に関わる専門職が連携し、医療的ケア児が保育に参加できる方法を考えて協力する姿勢を持つことが重要である。